

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

映画監督五十年 吉田喜重

Kiju Yoshida Retrospective

2010年10月5日(火) - 10月31日(日)

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター
協力: 現代映画社, 横浜美術館

10月の休館日:
月曜日

大ホール
開映後の入場はできません。
定員=310名(各回入替制)
料金=一般500円 / 高校・大学生・シニア300円 / 小・中学生100円 / 障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料
発券=2階受付

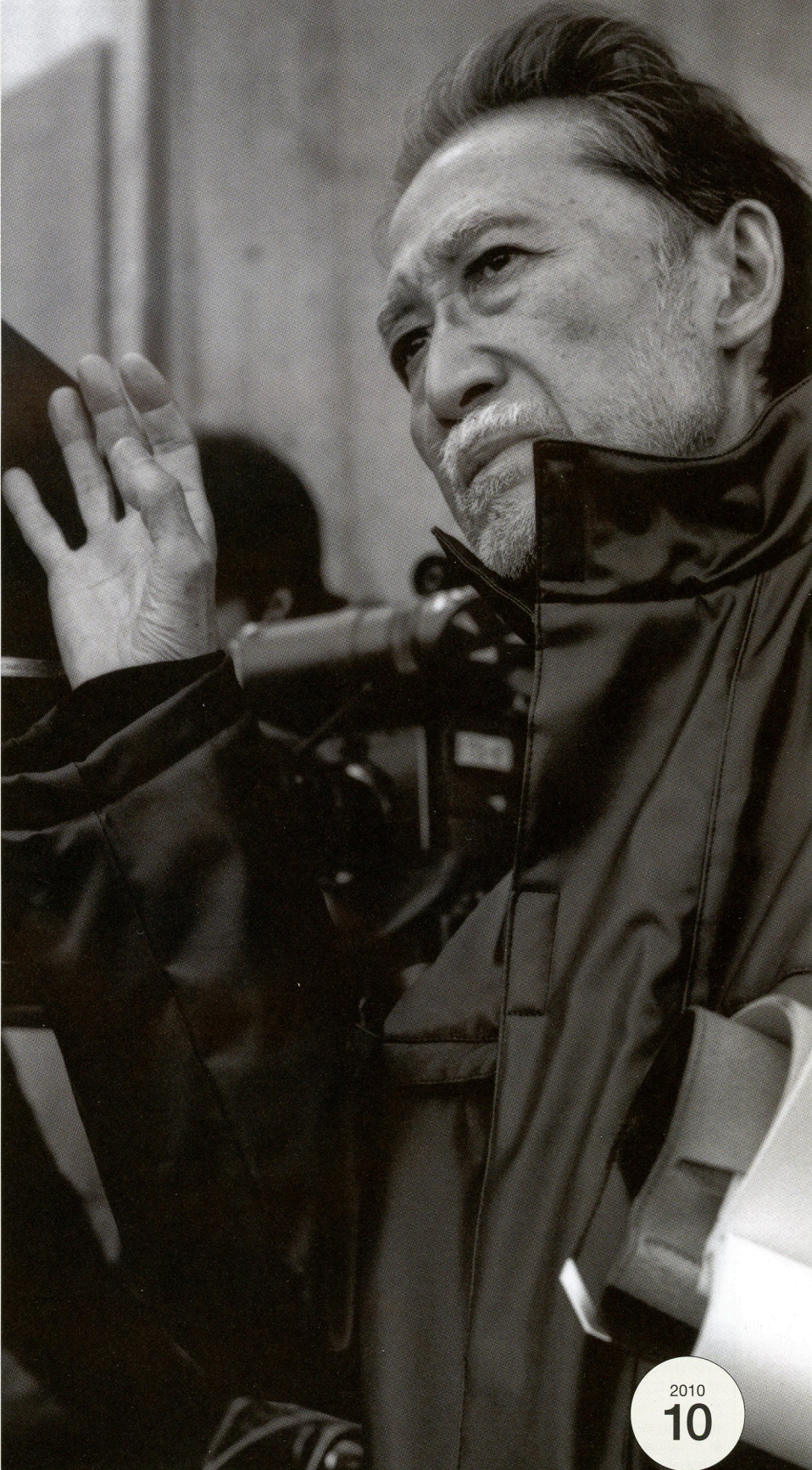
- 観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- 発券は各回1名につき1枚のみです。



東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



映画監督五十年
吉田喜重



Kiju Yoshida Retrospective

2010
10

NFCカレンダー
2010年10月号

大ホール 上映作品

映画監督五十年
吉田喜重
Kiju Yoshida Retrospective

吉田喜重監督の記念すべきデビュー作『ろくでなし』が公開されたのは、いまからちょうど50年前の1960年7月のことでした。一躍「松竹ニューヴェル・ヴァーグ」の旗手として注目を集めた吉田は『秋津温泉』(1962年)、『嵐を呼ぶ十八人』(1963年)などの作品で企業映画の定型を破り、また1964年に『日本脱出』の一部がカットされたのを機に松竹を退社、「現代映画社」を中心とする独立プロに活動の場を移してからは、性と政治、日本の近代化がはらむ矛盾を鋭く追及する一方、まばゆいハイキー・トーンのモノクロ撮影や余白を残した構図、鏡や水、日傘などのモチーフで独自のスタイルを確立しながら、日本映画の前衛を牽引していくこととなります。

とりわけ時空間が交錯する実験的な語法を試みた『エロス+虐殺』(1970年)のフランス公開後は国際的な評価も高まり、さらに『戒厳令』(1973年)の発表後はテレビ・シリーズ「美の美」(1974-77年)や『BIG1物語 王貞治』(1977年)などドキュメンタリーとの間を往還しながら、作家と映画表現の関係を問い続けてきました。そして、2003年には13年振りの劇映画となる『鏡の女たち』を発表。2008年にはバリのボンビドゥ・センターでも大規模な回顧上映が開かれるなど、その作品世界に新たな注目が集まっています。

本企画では、劇映画全19作に、長・短篇の記録映画を加えた計43本(24プログラム)の上映を通して、映画監督・吉田喜重50年の足跡を回顧します。

■記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

1 10/5(火)3:00pm 10/31(日)4:00pm

ろくでなし

(88分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

無軌道な「遊び」に走り、虚無の中に自滅してゆく大学生たちを描いた、戦後最年少監督としてのデビュー作。当時ゴダールの『勝手にしやがれ』との類似も話題となった。撮影には同じ新人の成島東一郎を起用。本作では全篇を通して75mmレンズだけを用いる実験も行われた。



1960(製作)松竹大船(監督)吉田喜重(撮影)成島東一郎(美術)芳野信孝(音楽)木下忠司(出演)津川雅彦、川津祐介、高千穂ひづる、山下洵一郎、林洋介、榎ひろみ、千之赫子、渡辺文雄、三島雅夫、安井昌二

2 10/5(火)7:00pm 10/24(日)1:00pm

血は渴いてる

(87分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

助監督時代に発表したシナリオ「英雄たちは渴く」を映画化した第2作。会社の臍首に反対し、自殺未遂事件を起こし、社会の注目を集めた会社員が、保険会社やマスコミにもはやされ、利用されるうちに、ついに自殺へと追いやられていく。同時上映された大島渚の『日本の夜と霧』とともに、封切からわずか3日で上映が打ち切られた。



1960(製作)松竹大船(監督)吉田喜重(撮影)成島東一郎(美術)佐藤公信(音楽)林光(出演)佐田啓二、三上真一郎、芳村真理、岩崎加根子、織田政雄、佐野浅夫、柏木優子、佐々木孝丸、青野平義

3 10/6(水)3:00pm 10/21(木)7:00pm

甘い夜の果て

(85分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

女性たちを利用して、社会へのしがらみとする青年の挫折。スタンダール「赤と黒」の現代版ながら、むしろ原作との間に生じる物語の落差がテーマとなっている。『陽のあたる場所』(ジョージ・スティーンズ)を意識し、「映画による映画の引用」が試みられた作品でもある。



1961(製作)松竹大船(監督)吉田喜重(脚本)前田陽一(撮影)成島東一郎(美術)芳野信孝(音楽)林光(出演)津川雅彦、山上輝世、嵯峨三智子、杉田弘子、暹羅子、日高澄子、滝沢修、浜村純、佐々木孝丸

4 10/6(水)7:00pm 10/30(土)1:00pm

秋津温泉

(112分・35mm・カラー・シネマスコープ・モノラル)

戦争末期、岡山県の山深い温泉場での出会い、幾たびか再会を重ねる男と女。ロケーションによる豊かな風景と情念のドラマが拮抗し、さらに17年間の時の流れに、日本の「戦後」が重ね合わされる。公私にわたるパートナーとなる岡田茉莉子、自らの「映画出演百本記念」となる本作で、吉田に監督を依頼、二人のコンビが実現する。



1962(製作)松竹大船(監督)吉田喜重(原作)藤原審爾(撮影)成島東一郎(美術)浜田辰雄(音楽)林光(出演)岡田茉莉子、長門裕之、中村雅子、日高澄子、小夜福子、殿山泰司、山村聰、宇野重吉、東野英治郎、吉川満子、夏川かほる、芳村真理

5 10/7(木)3:00pm 10/16(土)1:00pm

嵐を呼ぶ十八人

(109分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

瀬戸内海の巨大な造船所に社外工として雇われてきた、若いならず者たちの集団。題材は会社の提案によるものだったが、社会の底辺に不条理に生きる労働者たちの存在が、従来の「社会派映画」への批判をこめて描かれている。十八人の青年は一般からオーディションで選ばれた。



1963(製作)松竹京都(監督)吉田喜重(原案)皆川敏夫(撮影)成島東一郎(美術)大角純一(音楽)林光(出演)早川保、香山美子、芦屋雁之助、浪花千栄子、根岸明美、三原葉子、浦辺条子、殿山泰司、平尾昌章

6 10/7(木)7:00pm 10/19(火)3:00pm

日本脱出

(93分・35mm・カラー・シネマスコープ・モノラル)

この年に行われた東京オリンピックを背景に、貧しさゆえにアメリカに憧れ、日本脱出を図る青年の破滅を描く。会社よりアクション映画を作るように要請された吉田が「人間の内面をも圧殺して、野放図に拡散されるアクションの悲しみ」を描こうとした作品。主人公が発狂するラストが、封切時に無断でカットされたことから、松竹を退社する原因となった。



1964(製作)松竹大船(監督)吉田喜重(撮影)成島東一郎(美術)芳野信孝(音楽)武満徹、八木正生(出演)鈴木やすし、桑野ゆき子、待田京介、内田良平、坂本スミ子、市原悦子、早野寿郎

7 10/8(金)3:00pm 10/24(日)4:00pm

水で書かれた物語

(120分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

ニュース映画製作の中日映画社とともに作られた、松竹独立後の第1作。原作者の石坂洋次郎が「映画にもテレビにもなりえない」と語ったという母子相姦をテーマに、日本の社会における男性優位への批判として描かれた作品。映画会社から独立した直後の喜びを表わすかのように、実験的な手法を駆使し映像化されている。



1965(製作)中日映画社(監督)吉田喜重(脚本)石堂淑朗、高良留美子(原作)石坂洋次郎(撮影)鈴木達夫(美術)黒沢治安、平田逸郎(音楽)柳慧(出演)岡田茉莉子、浅丘ルリ子、入川保則、山形勲、弓恵子、桑山正一、岸田森、益田愛子、加代キミ子

8 10/8(金)7:00pm 10/23(土)1:00pm

女のみづうみ

(102分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

川端康成の小説を映画化した独立プロダクション・現代映画社の第1回作品。若い愛人に自分の裸体を撮影させた人妻が、そのフィルムを奪われ、見知らぬ男の脅迫を受けるようになる。石川県の片山津温泉から奥能登にかけてロケーションを行い、独立後の吉田作品を特徴づけるロードムービー的な演出の発端となった作品である。



1966(製作)現代映画社(監督)吉田喜重(脚本)石堂淑朗、大野靖子(原作)川端康成(撮影)鈴木達夫(美術)平田逸郎(音楽)池野成(出演)岡田茉莉子、露口茂、芦田伸介、早川保、夏圭子、益田純子、益田愛子、梅津栄

9 10/10(日)1:00pm 10/19(火)7:00pm

情炎

(97分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

独立後に作られた『水で書かれた物語』『女のみづうみ』とともに、性の主題を女性側から追究した作品。欲望のままに生きた母を持ち、いまは社長夫人として愛のない結婚生活を送っている女性が、母の情人だった男と再会、自らもその男を愛し、母と同じ道をたどりはじめる。



1967(製作)現代映画社(監督)吉田喜重(原作)立原正秋(撮影)金宇満司(音楽)梅田千代夫(音楽)池野成(出演)岡田茉莉子、木村功、高橋悦史、菅野忠彦、太地喜和子、南美江、しめぎしがこ、松下砂稚子、江守徹

10 10/10(日)4:00pm 10/20(水)3:00pm

炎と女

(101分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

当時社会的な話題であった人工授精をモチーフに、性なしに誕生した子供は母だけのものであり、父にはその権利がないとして、男性優位を覆そうとする作品。現代詩の詩人で『エロス+虐殺』など、その後のラジカルな吉田作品の脚本を手がける山田正弘が初めて参加。吉田作品の特徴となるハイキーのモノクロ撮影や実験的な構図が確立されていく。



1967(製作)現代映画社(監督)吉田喜重(脚本)山田正弘、田村孟(撮影)奥村祐治(美術)佐藤公信(音楽)松村禎三(出演)岡田茉莉子、木村功、小川真由美、日下武史、北村和夫、早瀬操、細川俊之、金内喜久夫

11 10/12(火)3:00pm 10/23(土)5:00pm

樹氷のよるめき

(97分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

冬の北海道を若い愛人とともに旅する女性、それはこれまでの関係を清算するための危険な賭けだった。だが男に拒絶された女は、かつての恋人が住む街に行き、再会する。そして生まれる緊迫した三角関係。その行きつく果てに男女三人は、雪の高原で思わぬ結果を迎える。



1968(製作)現代映画社(監督)吉田喜重(脚本)石堂淑朗(撮影)奥村祐治(美術)佐藤公信(音楽)池野成(出演)岡田茉莉子、木村功、蜷川幸雄、赤座美代子、藤原祐子、松井信子

12 10/12(火)7:00pm 10/29(金)7:00pm

さらば夏の光

(96分・35mm・カラー・シネマスコープ・モノラル)

日本航空の依頼により作られた、PR映画からなる作品。ヨーロッパ7カ国を巡りながら、あらかじめシナリオを書かずに、即興的な演出で撮影が行われた。原爆によって失われた聖堂の原形を求めて、ヨーロッパを旅する男と、その長崎を忘れるために異郷で暮らす女性が出会い、二人の旅が始まる。



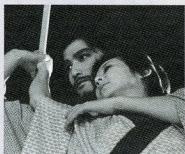
1968(製作)現代映画社(監督)吉田喜重(脚本)山田正弘、長谷川龍生(撮影)奥村祐治(美術)アザノチカ(音楽)柳慧(出演)岡田茉莉子、横内正、Paul Bauvais、Hélène Soubielle

13 10/9(土)0:30pm 10/22(金)3:00pm

エロス+虐殺

(164分・35mm・モノクローム・シネマスコープ・モノラル)

大正時代、アナーキスト大杉栄が自らが主張する自由恋愛論によって、愛人の一人に刺されるという日蔭茶屋事件を描きながら、さらに現代の時間も交錯するという、前衛的な手法が話題となった代表作。フランスで先行公開され、吉田の国際的な評価がいっきに高まったが、国内では作品のモデルとなった人物とのプライバシー問題が起り、オリジナルの226分より短縮された版が公開された。



1970(製作)現代映画社(監督)脚本吉田喜重(脚本)山田正弘(撮影)長谷川元吉(美術)石井強司(音楽)柳慧(出演)岡田茉莉子、細川俊之、楠侑子、高橋悦史、稲野和子、八木昌子、新橋耐子、松枝錦治、坂口芳貞、高木武彦、伊井利子、玉井碧、原田大二郎、川辺久造、金内喜久夫

14 10/13(水)3:00pm 10/31(日)1:00pm

煉獄エロイカ

(118分・35mm・モノクローム・スタンダード・モノラル)

戦後革命運動に学生として参加、挫折した暗い過去のある男が、やがて科学者として成功する。その平和な家庭に、ある日妻が連れ帰った謎の少女に、「私の父はあなた」といわれる。この少女を追うようにして、かつて学生時代の同志という人物が現われ、また現代の過激派の男女も登場、科学者の過去への審判が始まる。時間と空間の連続性を解体する手法が、前作の『エロス+虐殺』よりもさらに過激さを増し、映像もいっそう透明になっている。



1970(製作)現代映画社(監督)脚本吉田喜重(脚本)山田正弘(撮影)長谷川元吉(美術)山口修(音楽)柳慧(出演)岡田茉莉子、鶴田貞造、木村菜穂、牧田吉明、岩崎加根子、武内亨、筒井和美、佐伯赫哉、遠藤剛、大林丈史

15 10/17(日)4:00pm 10/27(水)7:00pm

告白の女優論

(124分・35mm・カラー・スタンダード・モノラル)

映画『告白の女優論』の撮影を2日後に控えた、スター女優3人の心の不安が描かれるとともに、その隠された過去が暴かれていく。浅丘ルリ子、有馬稲子、岡田茉莉子が競演、映画女優という存在の虚構性を問いかける異色作。それはいま消えつつある映画界への、吉田が贈る惜別の辞でもあった。カンヌ国際映画祭「監督週間」に出品。



1971(製作)現代映画社(監督)脚本吉田喜重(脚本)山田正弘(撮影)長谷川元吉(美術)朝倉慎(音楽)柳慧(出演)浅丘ルリ子、有馬稲子、岡田茉莉子、三国連太郎、木村功、太地喜和子、赤座美代子、久保まづるか、月丘夢路、稲野和子、川津祐介、細川俊之、菅貫太郎、伊藤豪、原田芳雄

16 10/9(土)5:00pm 10/28(木)7:00pm

戒厳令

(110分・35mm・モノクロ・スタンダード・モノラル)

二・二六事件の首謀者として処刑された北一輝の人物像に独自の視点で迫り、『エロス+虐殺』『煉獄エロイカ』とともに、「私自身の同時代として完成させた」という作品。それまでの映像表現の集大成ともいべき本作のあと、吉田は長く劇映画の製作から遠ざかることになる。カンヌ国際映画祭「監督週間」に出品。



1973(製作)現代映画社・ATG(監督)吉田喜重(脚本)別役実(撮影)長谷川元吉(美術)内藤昭(音楽)柳慧(出演)三国連太郎、三宅康夫、倉野章子、菅野忠彦、松村康世、八木昌子、飯沼慧、今福正雄、辻萬長、内藤武敏

「美の美」シリーズ

(各24分・16mm・カラー・スタンダード・モノラル)

1974年から77年にわたり、テレビ東京系で放映され注目を集めたドキュメンタリー番組。吉田は『戒厳令』の発表後、5年をかけて同シリーズ全133本中94本を製作。演出、構成、ナレーションを担当、こうした美術番組にありがちな、「美しい」という言葉を使うことを自らに禁じ、対象の美術作品を見るという行為そのものを問う。本特集では自選の20本を上映する。



1974-77(製作)日経映画社(演出)構成(語り)吉田喜重

17 10/13(水)6:00pm 10/26(火)2:00pm

「美の美」シリーズ①(計168分)

幻視の画家ポッシュ-I 異端の北方ルネサンス

幻視の画家ポッシュ-II- 地獄への下降

幻視の画家ポッシュ-III- 千年王国への夢

1974(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)Jean Elissalde(音楽)柳慧

ブリューゲル 画家が亡国を目撃するとき 集団への遠近法

ブリューゲル 画家が亡国を目撃するとき 美しい風景を犯すもの

1975(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)Jean Elissalde(音楽)柳慧

画家 カラヴァッジオの犯罪 殺人の果ての写実性

画家 カラヴァッジオの犯罪 シチリア マルタ島への逃避行

1975(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)John Wyatt(音楽)柳慧

18 10/14(木)2:00pm 10/26(火)6:00pm

「美の美」シリーズ②(計168分)

スペインの魔術師 ゴヤ-I 不吉な宮廷画家の出現

スペインの魔術師 ゴヤ-II- 近代の無秩序は彼とともに始まる

スペインの魔術師 ゴヤ-III- 理性の眠りは怪物を生む

1974(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)Jean Elissalde(音楽)柳慧

ドラクロワ ロマン主義の逆説 時代に遅れてきた青年

ドラクロワ ロマン主義の逆説 魂の貴族性について

1975(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)Jean Elissalde(音楽)柳慧

聖なるスキャンダル画家マネ オランピアの露出感について

聖なるスキャンダル画家マネ 一個の落日ダンディズム

1974(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)Jean Elissalde(音楽)柳慧

19 10/14(木)6:00pm 10/27(水)3:00pm

「美の美」シリーズ③(計144分)

ゼザンヌ その孤独なまなざし 青春よりはるか遠くにありて

ゼザンヌ その孤独なまなざし 南仏の一刻の夕立が

1974(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)Jean Elissalde(音楽)柳慧

伝道者ヴァン・ゴッホ 画家は何故画家になるのか

1974(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)Piet Van Strien(音楽)柳慧

故郷喪失者ヴァン・ゴッホ 画家は色とかたちを舞う

自虐の人ヴァン・ゴッホ 画家は耳を失う

ヴァン・ゴッホの自殺 画家はついに故郷に帰れず

1974(演出)構成(語り)吉田喜重(撮影)Piet Van Strien, Dominique Lefebvre(音楽)柳慧

20 10/15(金)3:00pm 10/20(水)7:00pm

BIG1物語 王貞治

(86分・35mm・カラー・スタンダード・モノラル)

ハンク・アーロンの世界最多記録を塗り替える756号ホームランを放ち、国民栄誉賞を受賞した王貞治の記録。映画はその生い立ちから大記録に至るまでの歩みを、関係者の証言をもとに描き、記録達成の9月3日当日、自宅から球場へ向かう王の足どりを再現、それを繰り返して反芻しながら歴史的瞬間の意味を問う。



1977(製作)読売映画社・東京読売巨人軍(監督)構成吉田喜重(撮影)高宮時夫、竹内功、樋口幹夫(音楽)柳慧(レーサー)竹脇無我(出演)王貞治、長嶋茂雄、川上哲治、荒川博

21 10/15(金)7:00pm 10/21(水)3:00pm

アンデス 美の巡礼

(25分・16mm・カラー・スタンダード・モノラル)

ペルー在住の日本人実業家・天野芳太郎がインカ時代の遺物を蒐集、自ら設立した博物館(リマ市)を支援するために企画された作品。秘境マチュピチュの遺跡、巨大なナスカの地上絵など、「生」と「死」を自由に往還するインディオたちの、豊かな想像力の世界へと誘う。



1979(製作)日経映画社(監督)構成吉田喜重(撮影)渡辺駿(音楽)構成柳慧(語り)根岸明

狂言師 三宅藤九郎

(32分・35mm・カラー・スタンダード・モノラル)

明治、大正、昭和の三代を一介の狂言師として生き、下賤の芸として認められてきた狂言を能から自立させた人間国宝・九世三宅藤九郎。俗なる物真似にはじまり聖なる道化に至る、そのきびしく磨き上げられた芸の世界に迫る。



1985(製作)日経映像(監督)構成吉田喜重(撮影)高畦幸一、小沢健次(音楽)柳慧(語り)伊藤惣一(出演)三宅藤九郎、和泉元秀

幕末に生きる 中岡慎太郎

(57分・35mm・カラー・スタンダード・モノラル)

中岡慎太郎の生誕150周年を記念して製作された記録映画。自らの名を隠し、一介の草莽の志士として歴史の陰に生きた慎太郎が、京都河原町の近江屋で坂本龍馬とともに暗殺されるまでの足跡を、現代の風景や再現ドラマを通して描く。



1987(製作)中岡慎太郎を舞台に出す会・日本経済広告社(監督)構成吉田喜重(撮影)堀田泰寛(音楽)沢井一恵(レーサー)伊藤惣一

22 10/17(日)1:00pm 10/28(木)3:00pm

人間の約束

(123分・35mm・カラー・ピスタサイズ・モノラル)

閑静な新興住宅地で寝たきりの老女が死んでいるのが見つかる。事件の真相が捜査されるにつれて、現代の家族に課せられた苦悩が浮かび上がってくる。吉田自身が劇映画から離れて13年が過ぎていながら、その空白をいささかも感じさせない密度の高い演出で、高齢化社会が直面する安楽死問題をきびしく見据えた作品。カンヌ国際映画祭「ある視点」部門に出品。



1986(製作)西武セゾングループ・テレビ朝日・キネマ東京(監督)脚本吉田喜重(脚本)宮内婦貴子(原作)佐江衆一(撮影)山崎善弘(美術)菊川芳江(音楽)細野晴臣(出演)三国連太郎、村瀬幸子、河原崎長一郎、佐藤オリエ、田島令子、武田久美子、杉本哲太、結城美栄子、高橋長英、米倉喬年、若山富三郎

23 10/16(土)4:40pm 10/29(金)3:00pm

嵐が丘

(132分・35mm・カラー・ビスタサイズ・ステレオ)

エミリー・ブロンテによる同名小説の舞台を、中世の日本に置き換えて翻案した大作。ジョルジュ・バタイユの「嵐が丘」論より構想を得た、吉田にとっては初の時代劇でもある。中世の時間、空間を喚起するために、カメラの移動を封じ、近代的な物語の構成を拒絶することによって、映画における時代劇の安易な約束事を否定する試みが行われている。カンヌ国際映画祭コンペティション部門に出品。

1988(製作)西友・MEDIACTEL(監督)(脚本)吉田喜重(原作)エミリー・ブロンテ(撮影)林淳一郎(美術)村木与四郎(音楽)武満徹(出演)松田優作、田中裕子、名高達郎、石田えり、萩原流行、高部知子、古尾谷雅人、伊東景衣子、杉山とく子、志垣太郎、今福将雄、うさぎ峻、三國連太郎



24 10/22(金)7:00pm 10/30(土)4:40pm

鏡の女たち

(129分・35mm・カラー・ビスタサイズ・ステレオ)

東京の閑静な街に暮らす老婦人とその孫娘の前に、失踪して行方がわからなかった娘、そして孫娘にとっては母と思われる女性が、24年ぶりに現われる。だが娘と思われる女性は記憶を失っており、それをよみがえらせるために母は娘と孫娘とともに、広島に向かった。原爆はあの閃光を見た死者のみが語るができる。生き残ったわれわれにそれを語る権利があるのだろうか。原爆を表現することの不可能性を鋭く問いかける、吉田監督らしい作品。カンヌ国際映画祭特別招待作品。

2003(製作)グルーヴコーポレーション・現代映画社・ルートピクチャーズ・グルーヴキネマ東京(監督)(脚本)吉田喜重(撮影)中堀正夫(美術)部谷京子(音楽)原田敬子、宮田まゆみ(出演)岡田茉莉子、田中好子、一色紗英、室田日出男、山本未来、北村有起哉、三條美紀、犬塚弘、西岡徳馬、石丸謙二郎



トーク・イベントのお知らせ

*入場無料(当日1回目の上映をご覧になった方は、そのままトーク・イベントに参加することができます。トーク・イベントのみの参加もできます。)

▶10月9日(土)3:20pm

ゲスト:吉田喜重監督

▶10月16日(土)3:00pm

ゲスト:蓮實重彦氏(映画評論家)

▶10月23日(土)3:00pm

ゲスト:青山真治氏(映画監督)

▶10月30日(土)3:00pm

ゲスト:岡田茉莉子氏(女優)

2010
10
大ホール

映画監督五十年 吉田喜重
Kiju Yoshida Retrospective

月	火	水	木	金	土	日
4	1 ろくでなし 3:00pm (88分)	3 甘い夜の果て 3:00pm (85分)	5 嵐を呼ぶ十八人 3:00pm (109分)	7 水で書かれた物語 3:00pm (120分)	13 エロス+虐殺 0:30pm (164分)	9 情炎 1:00pm (97分)
	2 血は渴いてる 7:00pm (87分)	4 秋津温泉 7:00pm (112分)	6 日本脱出 7:00pm (93分)	8 女のみづうみ 7:00pm (102分)	14 トークイベント ゲスト:吉田喜重監督 3:20pm	10 炎と女 4:00pm (101分)
11	11 樹水のよるめき 3:00pm (97分)	14 煉獄エロイカ 3:00pm (118分)	18 「美の美」シリーズ② 2:00pm (計168分)	20 BIG1物語 王貞治 3:00pm (86分)	5 嵐を呼ぶ十八人 1:00pm (109分)	22 人間の約束 1:00pm (123分)
	12 さらば夏の光 7:00pm (96分)	17 「美の美」シリーズ① 6:00pm (計168分)	19 「美の美」シリーズ③ 6:00pm (計144分)	21 アンデス 美の巡礼 ほか 7:00pm (計114分)	16 トークイベント ゲスト:蓮實重彦氏 (映画評論家) 3:00pm	15 告白的女優論 4:00pm (124分)
18	6 日本脱出 3:00pm (93分)	10 炎と女 3:00pm (101分)	21 アンデス 美の巡礼 ほか 3:00pm (計114分)	13 エロス+虐殺 3:00pm (164分)	8 女のみづうみ 1:00pm (102分)	2 血は渴いてる 1:00pm (87分)
	9 情炎 7:00pm (97分)	20 BIG1物語 王貞治 7:00pm (86分)	3 甘い夜の果て 7:00pm (85分)	24 鏡の女たち 7:00pm (129分)	11 トークイベント ゲスト:青山真治氏 (映画監督) 3:00pm	7 水で書かれた物語 4:00pm (120分)
25	17 「美の美」シリーズ① 2:00pm (計168分)	19 「美の美」シリーズ③ 3:00pm (計144分)	22 人間の約束 3:00pm (123分)	23 嵐が丘 3:00pm (132分)	4 秋津温泉 1:00pm (112分)	14 煉獄エロイカ 1:00pm (118分)
	18 「美の美」シリーズ② 6:00pm (計168分)	15 告白的女優論 7:00pm (124分)	16 戒厳令 7:00pm (110分)	12 さらば夏の光 7:00pm (96分)	11 トークイベント ゲスト:岡田茉莉子氏 (女優) 3:00pm	1 ろくでなし 4:00pm (88分)
					24 鏡の女たち 4:40pm (129分)	

■作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。

小ホール(地下1階)

京橋映画小劇場No.20
アンコール特集:
2009年度上映作品より

Back by Popular Demand: From the Programs of 2009

10月1日◎-10月17日◎ ※金・土・日曜日のみ上映

定員=小ホール151名(各回入替制)

発券=地下1階受付

料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/
小・中学生100円/障害者(付添者は原則1名まで)、
キャンパスメンバーズは無料

- ・開映後の入場はできません。
- ・観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- ・発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・発券は各回1名につき1枚のみです。
- ・詳細は当該チラシをご覧ください。

図書室カレンダー

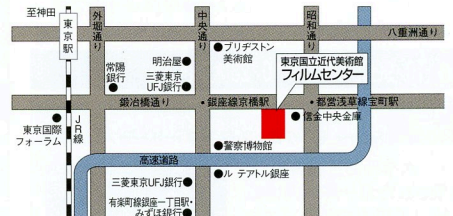
赤字は休業日

10月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

図書室(4階)

開室=火曜日-土曜日(午後0時30分-午後6時30分/入室は午後6時まで) 閉室=休館日および日曜日・祝日



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600

NFC ホームページ:

<http://www.momat.go.jp/>

NFC 携帯電話 ホームページ:

<http://www.momat.go.jp/nfc/>

